

第2回ジオパーク下仁田協議会学術部会（報告）

日時 令和元年8月20日（火） 午後6時00分

場所 下仁田町自然史館

所 属	氏名	出・欠		所 属	氏名	出・欠
群馬県立自然史博物館	高桑 祐司	出			里見 立夫	出
下仁田自然学校	中井 均	出		下仁田ジオパークの会	大河原 順次郎	欠
群馬県立自然史博物館	菅原 久誠	出		下仁田町自然史館	中村 由克	出
下仁田町歴史館	神戸 領栄	出		下仁田町自然史館	赤岡 明	出
中小坂鉄山研究会	原田 喬	出		下仁田町自然史館	関谷 友彦	出
群馬大学名誉教授	吉川 和男	出				

1 開 会

2 挨 拶

3 報 告

学術奨励金 前回の会議の推薦研究 3件が進行中。

4 協議事項

1) 前回審査からの活動状況再確認

平成27年度に策定したそれぞれの計画について、2年間でどこまで到達したかを確認し、それを踏まえた上で下記の意見が提案されました。

①アクションプランの進捗（学術部会に関するもの）

●資源の調査研究の支援策について

研究者向け調査窓口のHPの整備については形だけでもいいので早急に

→研究者への諸注意については、生態学会が野外観察のガイドラインを公開しているので参考にしてみても

●保護保全体制強化

地域に地質資源以外の、生態、文化的資源などどのようなものがあるのか把握し、地域資源カルテを作成。カルテを作成後、地域座談会を開催し、価値の重要性を地域住民に理解してもらい、地域の宝を地域の人々の目で守ってもらうよう促す

→生態系調査などは来年群馬県のレッドブック（希少動植物）改訂のための調査が行なわれるので、県自然環境科に下仁田方面

の調査を依頼してみてもいいですか？

ジオパークエリア内の開発事業について

→サイトがどういう場所にあるか、またそこにどういう貴重なものがあるのか、最低限行政内でも共有し、熊本の文化財を破壊した開発のような事例を出さないための施策を考えたほうがよいのでは？

現在町でも太陽光パネルについてのガイドラインを策定しているので、そこにジオサイトエリアに関する開発についても盛り込んでもらうようにしてはどうですか？

●ジオサイトデータベースの作成

カルテを事務局が主導で作る、モニタリングをするのはものすごく労力がかかるので、ガイドや関係者などがサイトで活動（調査・ガイド）を見学した時に、報告できるひな形を作ってみみんなでカルテを充実させる方法を考えてはどうですか？

アクションプラン全体にかかる提案

- ・再認定審査（2017）を受けた活動計画の内容がアクションプランのどの項目に当てはまるのか、内容を盛り込んだものを整理してはどうですか？
- ・アクションプランをSDGsのどの項目に当てはまるのか、分かるようなものにしてはどうですか？

②再認定審査（2017）を受けた活動計画の進捗

- ・歴史館展示に関する指摘事項について
 - 荒船風穴もジオサイトの一つなので歴史館の展示についても自然史館と協力しながら作るようにしてはどうですか？
- ・自然史館展示に関する指摘事項について
 - 自然史館はジオパークのビジターセンターという役割だけではないので、指摘事項をそのまま受け入れるのではなく、下仁田なりの展示の工夫をしてはどうですか？
- ・パートナーシップに関する指摘事項について
 - パートナーシップについて、どこまでの明文化されていればいいのか先進地に確認し、専門部会員などにも一筆署名してもらうような同意書を作ってみればよいのでは？

全体に関わること

→もっと具体的に●年までに何をやるを明記したものにしないと
検証するときに正しい検証ができないので、内容を精査したほうが
いい。

2) 学術奨励金要綱の見直しについて

- 学生が応募する際の指導教官からの推薦書様式を作成し、
要綱の改訂案を検討した。
- 申請書書き方、注意事項などを記した申請書の見本をHPに掲載
し、手続きの簡略化を進める。

3) その他

5 次回の部会開催について

令和元年 10月半ば～末頃を予定